

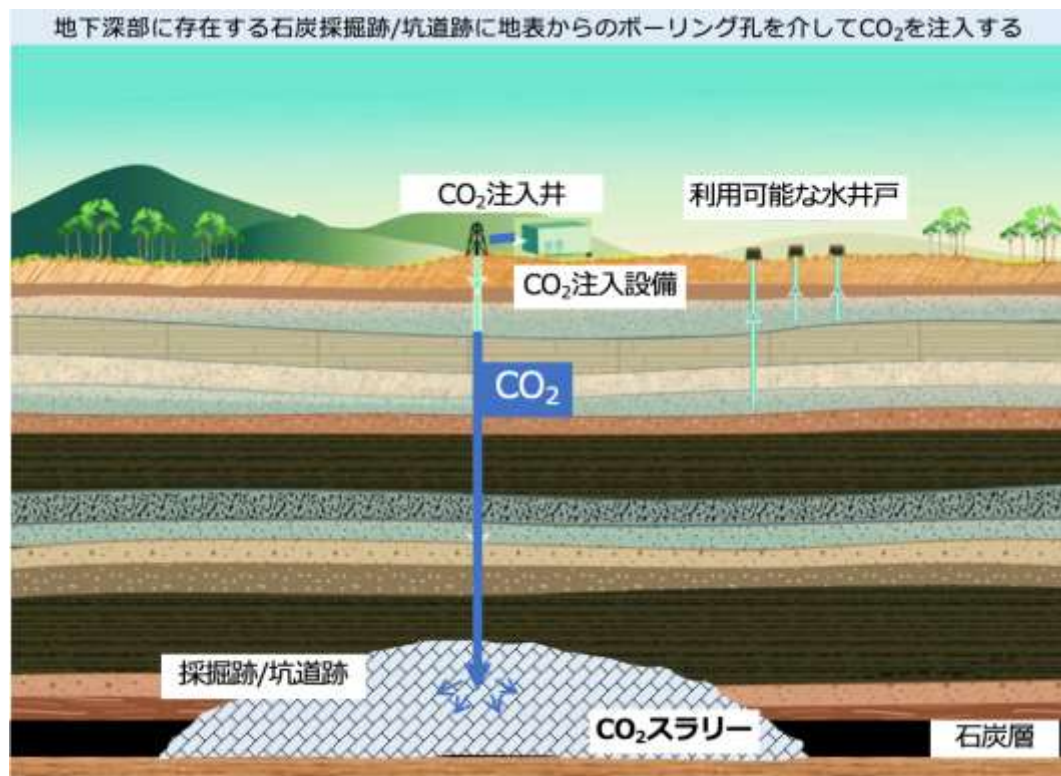
豊富な未利用資源を活用したエネルギー事業の推進 ～三笠市版ゼロカーボン北海道の追求～

寄付総額: 1 億円（2021 年度）



三笠市では、2001年に「三笠市環境基本条例」を制定し、その後に「三笠市新エネルギービジョン」を策定するなど、豊富な未利用資源の有効活用について模索してきた。

現在、大学等の研究機関と連携して、石炭と木質バイオマスとのガス化を組み合わせた技術（H-UCG）によって水素を製造するための研究開発を進めている。この成果を基に、水素の製造および利活用による新たな産業の創出や地域の活性化を目指している。



三笠市の地中には、石炭の採掘によって生じた空洞が数多く存在している状態である。

三笠市未利用エネルギー活用事業（CO₂ 固定研究事業）は、そのような採掘跡等に CO₂ を圧入（CCS）および CO₂ スラリーを圧送（カーボンリサイクル）する実験を行うことで、産炭地での新たな CO₂ 固定技術の確立に向けた CCUS 技術の研究を産学官連携によって進めるものである。

今回実験規模：40 トン/期間中

目標貯留規模：17,000 トン/年

[三笠市 HP：【産業開発課】『石炭地下ガス化×脱炭素』への挑戦](#)